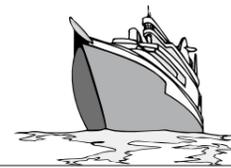


**PEACE
BOAT**

PHOTO : PEACE BOAT

水先案内人紹介



第84回ピースボート地球一周の船旅

水先案内人とは…?

ジャーナリスト、エンターテイナー、作家、NGO活動家、大学教授——。国内外の各分野の専門家が、クルーズの一区間で乗船します。ピースボートの洋上では水先案内人による、訪問する国々の文化や社会問題をわかりやすく、かつ鋭く語る講座のほか、コンサートやイベントが目白押しです。「先生」ではなく、「同航者」の一人として、ピースボートの船旅をより有意義なものへと導くナビゲーターの皆さんを、ピースボートでは「水先案内人」(通称:水案【みずあん】)と呼んでいます。

水先案内人パートナー『水パ』をやってみよう!

「水パ」とは水先案内人パートナーの略称です。水先案内人による船内企画をより楽しく有意義なものにするために、水先案内人のパートナーとして一緒に企画の内容を考え、宣伝や本番の進行をつとめる人たちのこと。言ってみれば「水先案内人企画実行委員会」の一員です。参加者のみなさんから募集するので、誰でも「水パ」になることができます。打ち合わせだけでなく、船内生活を共にする中で、普段なかなか接することのない「その道のプロ」と身近に話せるまたとないチャンス。「水パ」は寄港地から新しい水先案内人が乗船する度に募集します。ぜひ、やってみましょう!

横浜 → アカフトラ

深津高子 FUKATSU Takako

国際モンテッソーリ協会公認教師、一般社団法人AMI友の会NIPPON副代表



1980年代、タイ国境地帯のインドシナ難民キャンプで救援活動中、命からがら国境を越えてきた多くの「難民」に出会う。「なぜ難民がでるのか」「どうすれば戦争がなくなるのか」と自問中、あるキャンプ内の保育所で「平和は子どもから始まる」という答えに出会う。帰国後、幼児教育の勉強を経てモンテッソーリ幼稚園に11年勤務。現在はフリーの保育アドバイザーとして子どもの発達を考慮した幼稚園・保育園作りや、教師養成に取り組んでいる。

公式ブログ「ecollage」 <http://ecollage.info/>

横浜 → コリント

のはらヒロコ NOHARA Hiroko

ミュージシャン



日本のゴスペルシンガーの第一人者、亀渕友香さんを中心に1993年に結成されたゴスペルを主とするクワイアー『The Voices of Japan (VOJA)』に所属。これまでにDreams come true、LOVE PSYCHEDELICO、布施明、CHARA、加藤ミリヤほか多数のバックコーラスをはじめ、ゴスペルクワイアーでの講師やNYハーレムシンガーズ来日時のレクチャー講師を務める。船内では、ハワイアンコーラスレッスンを始め、ニカラグアのフェスティバルに向けてのゴスペルワークショップを行っていただく予定。

桃井和馬 MOMOI Kazuma

写真家、ノンフィクション作家、桜美林大学特任教授



これまで世界140ヵ国取材し、「紛争」「地球環境」などを基軸に、独自の切り口で「文明論」を展開。講演・講座の他、テレビ・ラジオ出演多数。第32回太陽賞受賞。日本写真家協会会員。また市民発電事業「多摩市循環型エネルギー協議会」では代表理事を務める他、「多摩グリーンライブセンター『がん哲学外来』カフェ」などの運営にも関わる。著書に『もう、死なせない!』(フレーベル館)、『すべての生命(いのち)にであえてよかった』(日本キリスト教団出版局)、『妻と最期の十日間』(集英社)、『希望の大地』(岩波書店)、共著に『3・11メルトダウン』(凱風社)、『東日本大震災一写真家17人の視点』(朝日新聞出版)など多数。

公式ホームページ <http://www.momoikazuma.com/>

横浜 → ダカール

ラティール・シー Latyr SY

ジャンパーアーティスト

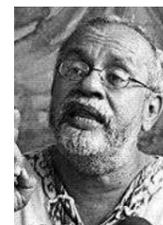


セネガル・ゴレ島出身。1998年、トラディショナルパーカッションバンド「Africa Djembe」を結成し、ソリスト、リードボーカル、リーダーとして活躍。ネルソン・マンデラコンサート、2002年サッカーワールドカップの開催式典、サッチャー首相やミッテラン大統領などの歓迎式典など、世界各国の公式式典で多数演奏。民族音楽・ラテン・ジャズ・ロックから日本の古典芸能に至るまでの幅広いジャンルで活躍している。また、アフリカンパーカッションのワークショップや、全国の小中学校にてアフリカの音楽と文化を紹介するなど、アフリカ音楽と文化の普及に大きく貢献し、テレビ番組にも多数出演している。

アカフトラ → ベレン

リカルド・ナヴァロ Ricardo NAVARRO

国際環境団体「FoEインターナショナル(地球の友)」元代表



エルサルバドル出身。ゴールドマン環境賞や国連グローバル500賞など数多く受賞する環境活動家。1980年代を中心に13年間続いたエルサルバドルの内戦中、草の根の環境保護団体として「セスタ(CESTA)」を創設。過去の環境破壊を回復させ今後の破壊を防止すべく、市民社会を中心とする取り組みを続けるこの団体は、現在エルサルバドル最大の環境NGOとなった。船内では、地域から地球規模まで幅広い視点で環境問題について講座を行う。

ベレン……→ベレン

ピンカ・レ・ブレトン Binka LE BRETON

環境活動家・作家



イギリス出身。ブラジル大西洋岸の熱帯雨林在住。熱帯雨林保護活動を行う団体「イラカンビ」の研究センター共同代表を務め、周辺コミュニティとともに熱帯雨林の保護や地域住民の生活改善に力を注いでいる。「イラカンビ」は開発不可能と言われ孤立した地域に、医療・教育・通信等の施設を導入するなど、コミュニティ開発に尽力。また、環境や人権をテーマに世界各地で多数講演。船内では自身が参加した「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」の様子をはじめ、南米アマゾンで起こっている環境問題についてお話いただく。

ベレン……→ダカール

マルシオ・アキラ・コウセイロ Marcio Akira COUCEIRO

ブラジル連邦大学カポエラ・センターコーディネーター



ブラジル出身。1996年、ミナス・ジェライス大学の学生の頃からカポエラ（黒人奴隷による抵抗の踊り）やブラジル大衆文化に興味を持つ。それ以来、ブラジルと日本でいくつものカポエラグループをコーディネート。2008年、ブラジル連邦大学にカポエラ・センターを創設しカポエラと大衆文化の魅力を伝えている。カポエラを通してブラジル・アマゾン地方に位置するロライマ州の教育や地域のつながりを回復させる活動をしており、その運動はアマゾン州全域やガイアナにまで広がりを見せている。

ベレン……→ラスパルマス

勝俣 誠 KATSUMATA Makoto

明治学院大学国際平和研究所所長



パリ第一大学博士課程修了（開発経済学博士）。セネガルのダカール大学法経済学部で教鞭をとった後、カナダ・モントリオール大学客員教員等を経て、2014年3月まで明治学院大学国際学部教授。現在林間塾『くぬぎの家』代表。専門はアフリカ地域研究、国際政治経済学。15年間にわたりフィールド・スタディの一環として学生とともにセネガルを訪問。地域研究の枠を超えて「豊かさとは何か」、「格差社会と暴力」などの切り口から船内講座・演習をおこなう予定。著書に『新・現代アフリカ入門—人々が変わる大陸』（岩波新書）、『アフリカは本当に貧しいのか—西アフリカで考えたこと—』（朝日選書）、共著に『脱成長の道—分かち合いの社会を創る』（コモンズ）など多数。

ベレン……→イスタンブール

武者小路 公秀 MUSHAKOJI Kinhide

元国連大学副学長、反差別国際運動(IMADR)副理事長



ベルギー生まれ、武者小路実篤の甥で、母方の祖母はフランス人。帰国子女、登校拒否のハシリ。1970年代後半に国連大学副学長となり、欧米中心でない社会科学研究者とネットワークを組む。1990年代には、国連 NGO 反差別国際運動で、ダリット・部落問題や搾取的移住・人身売買問題に取り組む。2000年代には、名古屋 COP10 の開催地市民活動に参加して、生命の一体性と多様性を先住民族の伝統から学ぶ運動に参加する。鋭い視点で西洋と東洋を対比させつつ、現代社会の問題点を紐解く秀逸な講座の数々にはファンも多い。

羽後 静子 HANOCHI Seiko

中部大学教授、中部ESD拠点推進会議コーディネーター、フェミニスト



専門は国際政治学、人間の安全保障、国際ジェンダー論。「持続可能な開発のための教育(ESD)」を普及させるための地域拠点として国連大学より認定された中部大学にて、その研究や実践活動を行っている。特に地域の歴史・文化・経済の活性化、多文化共生や日比国際児(JFC)の支援活動などを行う。女性の権利に関する活動にも力を入れ、1995年に北京で開かれた国連世界女性会議に参加し、その後も女性NGO「北京JAC」の立ち上げやグローバルなフェミニズム運動に関わっている。カナダヨーク大学大学院、政治学研究科博士課程修了。

ダカール……→バルセロナ

鎌田 實 KAMATA Minoru

諏訪中央病院名誉院長・作家



長野県の諏訪中央病院にて地域医療に携わり、「住民とともに作る医療」を提案・実践。活動は国内にとどまらず、1991年には日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)を設立し救護活動を開始。23年間ベラルーシ共和国へ97回の医師団を派遣し、約14億円の医薬品を汚染地帯の病院に支援してきた。3.11以降は、東日本の被災地支援に力を注いでいる。船内では「いのち」をテーマに様々な講座を予定。著書に『がんばらない』『あきらめない』（集英社）『〇に近い△を生きる』（ポプラ新書）など多数。

公式ブログ「かまたみのる公式ブログ 八ヶ岳山麓日記」 <http://kamata-minoru.cocolog-nifty.com/>

バルセロナ→ピレウス

幅允孝 HABA Yoshitaka

ブックディレクター・BACH(バッチ)代表



書店や施設などの本棚をプロデュースし、人と本がもう少しうまく出会えるよう、様々な場所で本の提案をしている。伊勢丹新宿店「ビューティーアポセカリー」や、「BrooklynParlor」など本屋と異業種を結びつけたり、病院や企業ライブラリーの制作など、その活動範囲は本の居場所と共に多岐にわたる。『本の声を聴け ブックディレクター幅允孝の仕事』(著・高瀬毅/文藝春秋)が刊行中。愛知県立芸術大学非常勤講師を勤める。

公式ホームページ www.bach-inc.com

バルセロナ→横浜

カジポン・マルコ・残月 Kajipon Marco Zangetsu

文芸研究家



NHK 文化教室講師。ライフワークは世界の作家、芸術家の墓巡礼。自身が感動した作品の作者へ「ありがとう」の言葉を伝えるため、四半世紀にわたって墓参りを続け感謝を伝えた“恩人”の数は、世界 51 カ国 1600 人以上。「民族や言語が違って人間は相違点より共通点が多い」「芸術は難しい」をモットーに活動し、映画、歌舞伎、アニメ、仏像、ロック、クラシックなどあらゆるものを「芸術」として初心者向けにやさしく紹介する。「墓マイラー」「ジョジョ立ち」の名付け親。現在『月刊石材』に巡礼レポートを連載。NHK『世界でニホン GO!』や民放、ラジオ、新聞などメディアで人間の素晴らしさを訴え続けている。ホームページ『文芸ジャンキー・パラダイス』は約 4500 万件アクセス。

公式ホームページ <http://kajipon.sakura.ne.jp/>

イスタンブール→横浜

久保田弘信 KUBOTA Hironobu

フォトジャーナリスト



大学で物理学を学ぶが、スタジオでのアルバイトをきっかけにカメラマンの道へ。1997 年からアフガニスタン取材を始め、アフガニスタン戦争では、多くのジャーナリストが首都カブールに向かう中、タリバンの本拠地カンダハルを取材。2003 年 3 月のイラク戦争では攻撃されるバグダッドから戦火の様子を日本のテレビ局にレポートした。近年はシリア内戦を取材しており、テレビ番組にも多数出演している。日本国内では写真展、講演会を中心に活動している。著書に『僕が見たアフガニスタン』(虹有社)、DVD 映像作品『イラク・伝えきれなかった真実』(ASIANEWS) など。

公式ホームページ <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~kubota-photo/>

コンスタンツァ→ミコノス

安藤美冬 ANDO Mifuyu

スプリ代表、多摩大学専任講師



慶応義塾大学卒業後、集英社を経て現職。ソーシャルメディアでの発信を駆使し、肩書や専門領域にとらわれず、多種多様な仕事を手がけ、働く場所を自由に選択する「ノマドワーキングライフスタイル」を実践している。講談社『ミス iD (アイドル) 2015』選考委員、雑誌『DRESS』(GIFT) の「女の内閣」働き方担当などを務めるほか、商品企画、コラム執筆など幅広く活動中。TBS 系列『情熱大陸』、NHK の E テレ『ニッポンのジレンマ』などメディア出演多数。著書に『冒険に出よう』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)。

公式ホームページ <http://andomifuyu.com/>

コロombo→シアヌークビル

マリオ・ゴメス Mario GOMEZ

人権弁護士、コロombo大学非常勤講師



スリランカ出身。コロombo人権弁護士として活躍するかたわら、コロombo大学で教鞭を取る。コロomboにある紛争研究機関「ベルゴフ財団」に所属し、対話やワークショップを通じたスリランカ紛争の解決に尽力した。国際法律家委員会のネパール局長、スリランカ局長を歴任し、多くの裁判官や人権活動家とともにさまざまな紛争のケースに携わりながら平和構築をおこなった。専門は人権法、女性の権利などをはじめとした法律。若い世代にワークショップなどを通じた紛争解決・平和構築の手法を伝え続けている。

森達也 MORI Tatsuya

映画監督・作家・明治大学特任教授



ディレクターとして、テレビ、ドキュメンタリー作品を数多く制作。1998 年、オウム真理教の荒木浩を主人公とするドキュメンタリー映画『A』(マクザム)を公開。ベルリン・プサン・香港・バンクーバーなど各国映画祭に出品し、海外でも高い評価を受けた。2001 年『A2』(現代書館)を完成。米国同時多発テロ後、高揚する危機管理意識とその副作用について、雑誌・新聞などで多く発言する。また不安や危険をおおる今のメディアについても言及。著書に『世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい』(筑摩書房)、『ドキュメンタリーは嘘をつく』(草思社)、『いのちの食べかた』(角川書店)、『死刑』(角川書店)など多数。2011 年には『A3』(集英社インターナショナル)で講談社ノンフィクション賞を受賞。

公式ホームページ http://moriweb.web.fc2.com/mori_t/

シンガポール→横浜

榎本英剛 ENOMOTO Hidetake

よく生きる研究所代表



人の可能性を引き出すコミュニケーションである「コーチング」を日本に紹介。今や日本有数のコーチ養成機関となった CTI ジャパンの創業者。2002 年にピースボートに乗船したことがきっかけとなり、持続可能な未来をつくるための活動に身を投じる。2008 年には、イギリス在住時に出会った世界的な市民運動である「チェンジ・ザ・ドリーム」および「トランジション・タウン」を日本に紹介、それぞれ NPO 法人を設立して全国的に展開中。現在は神奈川県藤野を拠点に活動している。

公式ホームページ <http://www.yokuikiru.jp>

シアヌークビル→横浜

セム・ソワンタ SEM Sovantha

AAD(アンコール障がい者協会)創設者



カンボジア出身。カンボジア内戦中の 1990 年、兵士として戦闘中に地雷の被害に合い、プノンペン病院で一年間治療を受けるが両足を失う。以降苦しい生活を強いられ、家族を支えるために物乞いをせざるおえない状況にまで追い込まれる。その後、観光客に本を販売する事業に成功し、寺院や市場の周りで物乞いをする障がい者に仕事を提供するなどの支援を開始。2003 年 5 月に AAD を立ち上げ、障がい者だけでなくその家族にも救いの手を差し伸べる活動を開始。今回はカンボジアでのオプションルツアーの受け入れから、クルーズ帰航後に日本各地でもお話しいただく予定。